

担い手育成特定資産事業 活動事例紹介 小川 貴宏さん(一関市)

執筆者 一関農業改良普及センター 佐藤 弘

平成 31 年に一関市室根町で親元就農した、小川貴宏さんを紹介します。

首都圏で食品会社に勤めていた小川さんは、両親がリタイアする前に畜産経営を継承したいと考えており、平成 30 年の秋、37 歳の時に一念発起して帰郷しました。

帰郷後は、新規就農ワンストップ相談窓口での相談や、税理士の指導を受け、平成 31 年 1 月に親から水稻・和牛繁殖経営を円滑に継承し、就農。

翌年 3 月には認定農業者となり、現在は、水稻生産のほか、成牛 23 頭を飼養し、牧草 6 ヘクタール、WCS 0.5 ヘクタールでは、自給粗飼料を確保して、飼料費を大幅に低減しています。

小川さんは、成牛 30 頭に拡大したい意向を持っていますが、水田の法面の除草に多大な労力を費やしてしまっていました。

限られた労働力で目標とする畜産経営の実現を目指す小川さんにとって、作業効率の向上は、経営改善に直結します。

そこで、令和 3 年度に、新規就農スタートアップ支援事業を活用してツインモアーを導入。

「お陰で除草などの農地管理の効率が良くなり、飼養管理の時間が増えた」と語る小川さん。今後の活躍が期待されます。



畜舎で牛の世話をする小川さん



令和 3 年度事業で導入したツインモアー